



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず、コツコツと手作りの政治を！

あきる野市民 1 年生

～ 1 年間で振り返って ～

昨年1月末、あきる野市に引っ越してきた36歳のあきる野市民1年生です。あきる野はよい所ですね。自分で言うのも気恥ずかしいですが、あきる野市に愛着を感じています。というのも、現在仕事はパートタイマー。時間に余裕があるので、市内をあれこれ散歩してみたり、公民館の催しに参加したり、地域に触れることが多い1年間でした。その中には多くの人との出会いもあり、充実した時間を過ごしていると感じています。

地域に愛着を感じると、地域の政治についても関心が高まってきました。市の広報を読んだり、「ギカイの時間」を読んだり、自分なりに情報を集めています。市長が替わり、何か変化があるのだろうか。区画整理事業についてはいったいどうなっているのか。下水道事業はどうなるのか。だれもが住みやすい地域づくりのためには、課題は尽きません。私たちは、地域社会の中で暮らしています。例えば、道路や上下水道、教育、福祉など身近な公的サービス。それらは「当たり前」にあるものだと思っていました。しかし、それらを維持し、よりよくしていくためには、だれかに「まかせっぱなし」ではダメなのだ気づきました。誰もが当事者です。



しかし、公民館で講演会などの催しに参加すると、私と同じくらいの年齢の男性の方はほとんどいません。みなさん生活のためにお忙しいのですが、少し残念です。一緒に学び、高め合える友達募集中です！（秋川在住 Y・M）

初めての傍聴

～ 市民のための議論を ～



私達の選んだ議員の皆さん方が、市民のためにどのような議論をして市政に生かそうとしているのか、一度は、この眼で確かめたかった。今回、その機会を得た。しかも、村木新市長の初議会という好運にも恵まれた。市長は、引田駅北口の区画整理の問題を大きな争点として相手に僅差で勝利したこともあってか、市民の関心も大きく傍聴席は早々と満席となり待つこと約1時間。やっと議場に入れた。丁度、辻さんの一般質問中だった。期待していた通り、数値や統計を使って分かり易くグラフや表に表して提示し、他市と比較したりして具体的で説得力のある質問を展開していた。これに対して、市長も行政側も受け入れざるを得ない好意的な答弁を引き出していた。注目の区画整理については、必ずしも市長寄りと言うのではなく財政難の中にあって、どう対処するのが市民にとってベストなのかを優先して是々非々で対応していくという姿勢がうかがわれたので安心した。

次に質問に立った自民党系のH議員は、負けた腹癒せか、感情むき出しの敵意に満ちた質問は、相手を罵倒するような場面もあり、聞くに堪えられないものだった。市長の答弁も具体性に欠け相手の感情を逆なでするような面もあり、どうかと思った。もっと冷静に対応し、お互いに市民のために何をどのようにしようとするのかを議論して欲しかった。時間の都合で途中退席したが、傍聴することにより議員の皆さんが、市民のためにどのように働いているのかを見届けられて本当に良かったと思った。（山田在住 S・N）

12月議会を傍聴して ～黒澤映画『生きる』～

昨年10月6日、あきる野市にとって画期的な出来事があった。村木新市長の誕生だ。

新市長の下での最初の定例議会を傍聴した。黒澤明監督の『生きる』を思い出しながら。志村喬が演ずる或る町の市民課長がガンの宣告を受け、余命幾ばくも無いことを知った彼は、自分がいい加減に判を押しお蔵入りさせていた或る地域のお母さん方の公園建設の要望書を取り上げ、縦割り行政の垣根を越え、上部自治体や国の関係部署と折衝し、公園建設に尽力、完成した公園のブランコで幸せな笑みを浮かべて死んでいった。

村木氏は、この市民課長とは立場も状況も異なるが、開発優先の沢井市政と決別し、市民要求実現のために財政健全化を目指して当選した。前市長を応援した志清会の一般質問では、市長の政策（それは多くの市民の要求でもある）に対し資金はどうか、手続きをどうする、違約金がどうのこうのと実現の不可能性をあげつらい、反対するばかりだ。

公務員とは何なのか？！ 市民の要求がまともなものであれば、その実現のために予算や手続きや、上部組織との折衝等の困難を解決すべく考え、研究し、実行していくのが公務員ではないのか。市議員も同じだ。議員が市民の代表であるなら、市民の要求がもっともなものかどうかを判断し、その実現のために努力すべきだ。市民の間に対立・矛盾があるならば、その両者の納得のいく方策を見いだすべく努力すべきではないか。（山田在住 S・Y）

無所属
一人会派

辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、2期目。草花で、夫と高3の次男、ネコ1匹と暮らす。

駅頭にて

議会活動の合間を縫って、朝の通勤時間帯、改札口に急ぐ人々に、辻さんはマイクを手に語り掛け、私たちくさしぎのメンバーは、辻さんの声を背に、時に「市議会レポート」を、時に「歩む会通信」を手渡しています。

十数年前、零細企業の営業職であった私の個人的経験からすると、これから職場に向かおうとする人の心中は、今日一匹の獣を仕留めないと、たちまち飢えに直面してしまう狩猟採集時代の原始人の逼迫感と、そんなに隔たったものとも思えません。皆、様々な厳しい状況を抱えて、それぞれの職場に向かっているはず。そういう余裕のない時間帯にもかかわらず、それでも、辻さんの言葉に歩を緩め、私たちの差し出すパンフレットを受け取ってくれる人々がいます。それは、私にとって深い感謝の瞬間です。

古い歴史を持つ五日市盆地、豊かな土壌に恵まれた秋留台地、そのあきる野市に暮らす人々も多様です。努力が実って、順調な人生を送っている人も多いでしょう。けれども、人生の不条理を一身に受けて、苦しい生に喘いでいる人も、また少なからずいるはず。政治や行政が、その人々の存在に気付いていて、救いの手を差し伸べているのなら、何も言うことはありません。しかし、今の政治や行政には見落としがあるばかりか、見て見ぬふりをしていることさえあるのではないのでしょうか。政党に属さず、組織に^{から}搦め捕られず、自在な立場を貫いている「くさしぎ」だからこそ、立ち向かえる問題が、そこにあるように思います。（館谷在住 K・Y）

